

Windows 標準バックアップ使用時の注意事項

[対象システム]

Windows 2000

Windows Server 2003

[条件]

boot.ini で /PAE オプションが指定されているシステムとされていないシステムの間で、Windows 標準バックアップのメディアの互換性が保持されません。

/PAE オプションを指定できるのは Windows Server 2003 Enterprise Edition/Datacenter Edition、Windows 2000 Advanced Server/Datacenter Server のみとなっています。

Windows Server 2003 Enterprise Edition および Windows 2003 Datacenter Edition では、自動的に PAE が有効に設定されます。

[現象]

boot.ini にて /PAE オプションの指定されていない環境でバックアップされたメディアを、/PAE オプションの指定されている環境で読み出そうとすると、下記のポップアップが表示され、メディアを認識する事ができない現象が発生します。

<メッセージ>

・マウント待機中

ドライブが使用中のため、ライブラリは現在メディアを読み込む事ができません。

メディア名 : (メディア名)

受付時刻 : xxxx 年 xx 月 xx 日 at xx:xx:xx

・保留中のオペレータ要求

メディア "(メディア名)" をドライブまたはライブラリユニットに置いてください。

コンピュータ: (マシン名)

ユーザー: (ユーザー名)

受付時刻: xxxx 年 xx 月 xx 日 at xx:xx:xx

本現象は、ご利用いただいている環境により、テープへ書き込まれるデータブロックのサイズが異なる状態となるため発生します。

[回避策]

以下の方法で、一時的にシステムの状態をバックアップ元にあわせる事で読み出し可能な状態として回避いただきますようお願いいたします。

<回避策：一時的に /PAE オプションの指定を解除する>

- 1) エクスプローラの「表示」オプションで「すべてのファイルとフォルダを表示する」を選択し、「保護されたオペレーティング システム ファイルを表示しない (推奨)」のチェックを外します。
- 2) システム起動ドライブの boot.ini ファイルのプロパティを表示し、「読み取り専用」がチェックされている場合は解除します。
- 3) boot.ini ファイルをコピーし、別名で保存しておきます。
- 4) メモ帳などで boot.ini ファイルを開きます。
- 5) 開いたファイルで "/PAE" の文字列を削除します。
- 6) 編集後のファイルを上書き保存します。
- 7) システムを再起動します。
- 8) 再起動した状態で、メディアからのリストアを行います。
- 9) リストア終了後は、上記手順で boot.ini を開き、5) で削除した /PAE オプションを元の状態に戻します。
- 10) boot.ini を保存してシステムを再起動します。
/PAE を削除してシステムを起動している間は、4GB 以上のメモリを実装していても、4GB までしか認識できません。データのリストア後は速やかに元の状態に戻し、その状態で再度バックアップを取り直す事をお勧めします。

[補足]

Windows 標準バックアップは、現在のシステムを維持する災害回復ユーティリティとしての設計されており、同一のコンピュータに対してリストアを行うことを目的としています。異なるコンピュータへのリストア、及び異なる OS バージョンへのリストアに関しては推奨されておりません。